

操業Ⅲ

遙か太平洋上の神海丸では、TV も BS も映らないので日本のニュースは、共同通信が船舶用に送信してくれる新聞を読み取り形式のファイルにしてパソコンで読み込んだものを印刷して掲示するという手法をとっています。活字だけで映像や音声がないのが残念ですが仕方ありません。短波ラジオを持っている人は、音声でニュースを聞くことができます。いろいろなニュースがありますが、前回の乗船時は御嶽山が噴火しました。今回は草津白根山が噴火し犠牲者が出て心が痛んでなりません。山でも海でも自然相手という事に引き締めて改めて安全航海を目指したいと思います。カメムシが多い年は雪も多いという話を聞きますが、今年の秋は例年になくカメムシが多かったですが、やはりまんざら嘘ではないようで日本では冬将軍が居座り記録的に寒い冬になったと聞いています。神海丸はもちろん寒さとは無縁の世界です。日中の最高気温が27度あり、太陽の光を浴びながら作業する揚縄①班の生徒は、日焼けで顔が黒くなっていきます。生徒たちは操業回数をこなすにつれ、作業にもすっかり慣れてきました。船内生活にも余裕が見られるようになり、空き時間にはスマートフォンのゲーム？で遊んでいたたりしています。神海丸に乗船して1ヶ月が過ぎました。ほとんどの生徒は、消費計画が杜撰な事もあり^^、あれだけ大量に積み込んだお菓子などの嗜好品も、残りが心細くなっている生徒もいます。これを機会に、12月の乗船説明会でもお話したように炭酸飲料、スナック菓子やカップラーメン等のインスタ食品をあまり食べない習慣を身に付けて欲しいものです。2月14日現在（船内時間）操業18回目を迎えました。中間（中日）を越え下船まで1ヶ月となり、船員さんも生徒たちも会話の中にホノルルの話題が頻繁に上がるようになってきました。ホノルルでの滞在をととても楽しみにしているようです。しかし、まだまだ操業があるので、集中して取り組みたいと思います。

追伸

海洋技術科の先生方、今航海の本科生及び専攻科生にジュースとお菓子を積み込んで下さり有難うございました。操業も中日が過ぎジュースとお菓子が心細くなってきた実習生のために、有難く奮発させて頂きました。実習生たちは、突然のプレゼントに喜んでおりました。あわせて、田邊先生、長田先生及び小澤さん、積み込んで頂いた愛のチョコレートを浜田水産の実習生全員に配布させて頂きました。生徒を代表しお礼申し上げます。



専攻科生の渡邊君にいろいろ教えてもらっている若菅君です。



組み上がったブラン（枝縄）を積み付けている古川君。



組み上がったブラン（枝縄）をトロッコまで運ぶ藤田君。



専攻科生と一緒にブラン（枝縄）を組んでいる宇津君。

えひめ丸追悼

水産練習船に乗り組み実習航海を行う私達にとって、えひめ丸の衝突事故は決して忘れてはならない悲しい出来事です。

今から17年前の平成13年2月9日、ホノルル港を出港した愛媛県立宇和島水産高校所属のえひめ丸とオアフ島付近で一般人を体験乗船させ、緊急浮上訓練中のアメリカ海軍の原子力潜水艦グリーンビル号が衝突事故を起こしました。

緊急浮上訓練をする際は、アクティブソナー等で周囲の船舶の有無や動向を把握し、安全確認をした上で行うことがアメリカ海軍の実施規定に明記されています。さらに潜望鏡水深までいったん浮上し艦長自らが自分の目で安全を確認してから行うことになっています。これらの安全確認がきちんと行われていれば、防げた事故であったと事故後に安全調査委員会が報告しています。完全にこの事故は人災だったのです。

衝突後、3分から5分で居住区のあるデッキまで水没したそうです。

衝突する際、えひめ丸は原子力潜水艦のチタン合金で出来た水平尾翼により船底から船側にかけて幅50cm長さ20mにわたり切り裂かれ一挙に海水が船内に浸水しました。

唐突になんの落ち度もなく、命を奪われてしまった9名の方々を想う時、語るべき言葉が見つかりません。ただ、今の私達が考え、行うべきことは、実習中や将来において船舶に乗船し、船舶を運航する時に、安全確認を必ず行いこのような悲しい事故を二度と起こさないことだと想います。

衝突事故により尊い命を失われた3名の乗組員、2名の指導教官そして4名の実習生の方々のご冥福を心よりお祈りいたします。

そして、私達はこの悲しい事故を忘れないため後世に伝えていくことをお誓いいたします。 黙祷。



ホノルルの方角に向けて全員で黙祷をしました。